

エコアクション21 2024年度環境経営レポート

(対象期間：2024年4月～2025年3月)



発行日：2025年06月09日

目 次

1. 組織概要及び認証登録の範囲	P3
2. 実施体制	P4
3. 環境経営方針	P5
4. 環境経営目標	P6
5. 環境経営計画の取組活動	P7
6. 環境経営目標の達成状況	P8
7. 取組内容の結果と評価	P9
食品ガイドラインへの対応	P10
地域貢献活動～清掃活動～	P11
小集団活動紹介～マイエコアクション～	P12
その他活動	P13～P14
8. 環境関連法規の取りまとめ	P15
9. 代表者による評価と見直し	P16
10. 2025年度環境経営目標	P17

1. 組織の概要、 認証・登録の対象範囲

◆組織の概要

- 1) 事業所名 株式会社 九州コクボ
代表者氏名 代表取締役 木村 勇輝
- 2) 所在地 本社・日田工場 〒877-1351 大分県日田市三ノ宮町2丁目1798番地
- 3) 環境管理責任者 製造部 工場長
実務担当者 管理部 管理課 主任
連絡先 TEL 0973-24-9069 FAX 0973-26-5569
- 4) 事業の内容 氷雪商品の製造及び販売 ・ 冷凍和洋菓子の仕入及び販売
・主要製品:ロックアイス



- 5) 事業の規模 総売上額:2,6318百万円 (2024年 3月期)

	単位	本社
従業員数	人	33
延床面積	m ²	5,110

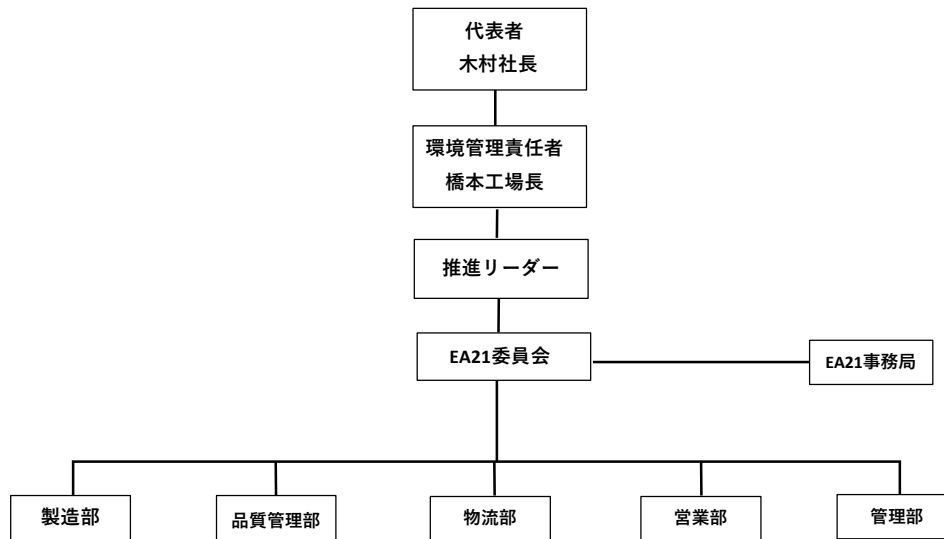
2025年 03月 31日 現在

- 6) 事業年度 4月 ~ 翌年 3月

◆認証・登録の対象範囲(全組織・全事業活動)

- 7) 事業活動 氷雪商品(ロックアイス)の製造及び販売 冷凍和洋菓子の仕入及び販売
- 8) 対象事業所 本社・日田工場

2. 実施体制



	役割・責任・権限
代表者	・ 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ ・ 課題とチャンスを確認し、必要に応じて見直す ・ 環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する ・ 環境管理責任者、EA21事務局を任命する ・ 環境への取組を実施するための資源(人・もの・金)を準備する ・ EA21全体の取組状況に関し、評価見直しを実施する ・ 環境経営レポートを承認し、公表する
環境管理責任者	・ EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築・実行 ・ 環境経営目標、環境経営計画を作成し、毎年見直す ・ 環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況を確認・評価する ・ 上記の結果を代表者へ報告する
EA21委員会	・ 適宜委員会を開催し、環境経営目標及び環境経営計画に実施状況を審議する
EA21事務局	・ 環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類の作成・維持・集計を行う ・ 社外からの環境情報の収集と伝達を行う ・ 環境経営レポートを作成する
推進リーダー	・ 環境経営方針・環境経営目標・環境経営計画を全部門へ周知する ・ 環境経営目標達成ため、責任を持って自部門の環境活動を推進する ・ 自部門で発生した問題点の是正処置、予防措置を実施する ・ 自部門に関連する法規制等を遵守する ・ 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する ・ 自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	・ 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する ・ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

3. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

株式会社九州コクボは、水と緑あふれる水郷日田に感謝し
豊かな自然環境を未来の世代へ引き継ぐため、社員一人ひとりが環境負荷低減を意識し
持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

＜次の項目を重点項目とし、全員参加の実施体制を維持して、継続的改善を推進します。＞

- 1.事業に伴う省エネ活動を推進し二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2.プラスチック対策に於いて環境配慮型素材の使用や削減に向けた取り組みを推進します。
- 3.水郷日田の豊かな恵みに感謝し、地下水汲み上げ量の適切な管理と有効活用、節水に努めます。
- 4.製品に塗布するプリンターインクの適正管理に努めます。
- 5.食品廃棄物の排出0%を継続致します。
- 6.氷の持つ冷却エネルギーにより、人々の健康、食の安全、豊かな生活を支えてまいります。
- 7.環境保全活動に於いて地域社会との協調を図り、地域貢献活動を推進します。
- 8.全従業員に環境経営方針・目標を周知し意識の向上を図ります。

＜当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します＞

＜環境経営方針及び当社の環境への取組状況は、定期的に公表します＞

約定日 2024年 03月01日
株式会社 九州コクボ
代表取締役 木村 勇輝

4. 環境経営目標

活動期間：(2024年4月～2025年3月)

環境経営目標		単位	基準年 2023年度								
				2024年度 (0.5%削減)	2025年度 (0.5%削減)	2026年度 (0.5%削減)	2027年度 (0.5%削減)	2028年度 (0.5%削減)	2029年度 (0.5%削減)		
			2023年4月～ 2024年3月	2024年4月～ 2025年3月	2025年4月～ 2026年3月	2026年4月～ 2027年3月	2027年4月～ 2028年3月	2028年4月～ 2029年3月	2029年4月～ 2030年3月		
1. 二酸化炭素排出量の削減		kg-CO ₂	2,300,197	2,288,696	2,277,252	2,265,866	2,254,537	2,243,264	2,232,048	※1	
	(1) 電気使用量削減									※2	
	第一工場	kWh	3,539,217	3,521,521	3,503,913	3,486,394	3,468,962	3,451,617	3,434,359		
	第二工場	kWh	3,055,020	3,039,745	3,024,546	3,009,423	2,994,376	2,979,404	2,964,507		
	合計	kWh	6,594,237	6,561,266	6,528,459	6,495,817	6,463,338	6,431,021	6,398,866		
	(2) ガソリン使用量削減	ℓ	3,824	社用車の適正管理							
	(2) 軽油使用量削減	ℓ	386.85	イベントのみの使用の為適正管理						※3	
2. 廃棄物排出量の削減											
	一般廃棄物の削減		排出量が少ない為、日常的な管理を行う。								
※4	産業廃棄物排出量の削減	t	26.48	100%リサイクル継続							
※5	3. 水使用量の適正管理	m ³	生産数に比例する為、日常での適正管理を行う。								
※6	4. 化学物質使用量の適正管理	ℓ	該当化学物質の使用無し。								
5. 食品廃棄物ゼロの継続		t	0	0	0	0	0	0	0		
6. 地域貢献活動の実施		市内小中学校へ熱中症対策として、自社商品の配布。地元企業と連携した育樹活動。 市内祭り後のゴミ拾いボランティア活動の参加。									

備考

- ※1 購入電力の二酸化炭素排出係数は、基準年である2023年度は0.347kg-CO₂/kWhを適用、
2024年度実績より、0.417kg-CO₂/kWhを適用。
上記の電気、ガソリン、軽油に加え、灯油の使用量も含めた数値とする。
- ※2 目標値は前年度の実績から0.5%削減した値を目標値として設定。
2024年度からは、生産状況を鑑みて0.5%削減目標に変更。
- ※3 目標値は前年度実績の0.5%削減値に設定。
2024年度からは実状としてイベントのみの使用の為、適正管理に変更。
- ※4 産業廃棄物の削減は、廃プラを対象とする。
- ※5 生産数によって、使用量の変動が大きい為、「適正管理」とする。
- ※6 化学物質は有機則該当(メチルエチルケトン含有)のものから「有機則非該当(4146K)」に変更。

5. 環境経営計画の取組活動



【二酸化炭素排出量の削減】		
取組目標	SDGs 9-4	達成手段
環境配慮に取り組み、コスト削減を目指す		①薄肉資材の使用・検証・評価継続
		②グリーンロジスティック継続
		③倉庫・プラットフォーム温度管理
取組目標	SDGs 8-5	達成手段
工場稼働の効率化及び健康経営		①閑散期の稼働日調整(集約生産)の継続
		②ジムを活用した健康増進活動



【廃棄物排出量の削減】		
取組目標	SDGs 12-5	達成手段
①環境へ配慮した資材の導入		①環境へ配慮した資材の導入・検証
②副資材における廃棄物削減、コスト削減、作業軽減		①資材荷姿検討、導入
③産業廃棄物排出リサイクルの継続		①廃プラ、フィルムの100%リサイクルを継続



【水の適正管理】		
取組目標	SDGs 6-4,6-5	達成手段
水の適正管理		①ロス削減
		②生活用水節水活動継続



【化学物質使用量の適正管理】		
取組目標	SDGs 12-4	達成手段
化学物質の適正管理		インク使用量の適正管理、削減量の把握



【食品廃棄物ゼロの達成】		
取組目標	SDGs 12-3	達成手段
食品廃棄物排出0%の継続		仕入れ商品在庫の適正管理の継続



【環境保全活動、地域貢献活動を通し社員の意識向上を図る】		
取組目標	SDGs15-2	達成手段
森林再生の継続		育樹活動 【企業参画の森】 定期管理
教育を通じての環境意識向上		ステークホルダーと連携した知識交流会
水郷日田への感謝		市と共に歩む奉仕活動



取組目標	SDGs13-1	達成手段
氷の持つ冷却エネルギーで貢献と支援		熱中症対策の継続・災害支援活動

6. 環境経営目標の達成状況

	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電力使用量 (第一工場)	実績	kWh	310,723	313,555	363,010	377,254	370,499	372,336	340,512	198,791	188,968	192,181	165,712	318,722	3,512,263
	目標値	kWh	333,478	331,848	325,178	372,559	382,517	398,058	253,730	190,253	175,180	202,134	230,125	326,461	3,521,521
	1C/S当たり	kWh	2.41	2.36	2.40	2.83	2.75	2.93	1.99	2.81	2.51	2.97	2.27	2.10	2.50
	前年	kWh	2.25	2.38	2.43	2.71	2.74	2.55	3.01	3.06	2.69	3.21	2.68	2.27	2.60
	前年対比		93%	94%	112%	101%	97%	94%	134%	104%	108%	95%	72%	98%	100%
電力使用量 (第二工場)	実績	kWh	284,040	302,760	286,500	326,200	339,390	317,690	236,330	203,970	195,330	179,730	140,540	195,560	3,008,040
	目標値	kWh	272,789	291,028	322,887	311,156	335,335	275,456	279,326	204,751	201,338	179,538	153,668	212,472	3,039,745
	1C/S当たり	kWh	1.32	1.35	1.52	1.46	1.45	1.33	2.54	1.98	3.48	2.47	2.43	2.20	1.70
	前年	kWh	1.41	1.36	1.35	1.43	1.53	1.67	1.99	2.64	2.94	2.65	2.76	1.97	1.70
	前年対比		104%	104%	89%	105%	101%	115%	85%	100%	97%	100%	91%	92%	99%
ガソリン使用量	実績	L	307.0	534.1	450.6	493.1	494.2	481.1	428.2	378.4	464.5	320.3	634.0	504.4	5,489.7
	目標値	L	263.7	286.0	406.2	295.8	410.8	271.6	249.5	340.8	337.7	240.8	331.7	370.5	3,805.1
	目標対比		116%	187%	111%	167%	120%	177%	172%	111%	138%	133%	191%	136%	144%
	評価※		※社用車を適正管理と位置づけ測定記録表のみ。												
軽油使用量	実績	L	0	0	48	81	0	0	0	0	0	0	0	0	129
	目標値	L	31.94	0.00	80.64	0.00	0.00	0.00	215.62	0.00	0.00	0.00	0.00	56.72	385
	目標対比		100%	0%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	100%	100%	0%	4048.3%
	評価		○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エネルギー使用量	実績	kg-CO2	248,728	258,242	272,015	294,693	297,170	288,857	241,536	169,153	161,803	156,415	130,007	215,890	2,734,510
	目標値	kg-CO2	211,069	216,801	226,029	237,935	250,048	234,339	186,106	138,182	131,755	133,883	134,533	188,016	2,288,696
	目標対比		118%	119%	120%	124%	119%	123%	130%	122%	123%	117%	97%	115%	119%
	評価		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
産業廃棄物排出量	廃棄量	t	3.7	2.8	3.0	3.2	2.9	3.4	3.4	0.0	2.5	0.0	1.1	1.2	27.1
	目標値	t	2.2	3.9	2.4	4.1	4.0	2.9	1.3	1.6	1.0	0.8	1.0	1.0	26.3
	目標対比		168%	73%	123%	77%	71%	117%	259%	0%	249%	0%	103%	123%	103%
	評価		×	○	×	○	○	×	×	○	×	○	×	×	×
水使用量(第一工場)	第一工場使用量	m ³	7,830	7,561	8,107	7,528	6,413	7,430	6,262	4,146	3,993	4,074	2,807	7,125	73,276
	目標値	m ³	8,467	8,462	7,843	7,681	8,808	7,982	7,035	3,686	4,152	4,074	5,619	8,360	82,169
	1C/S当たり	m ³	0.053	0.051	0.053	0.049	0.041	0.046	0.041	0.054	0.055	0.056	0.050	0.050	0.599
	前年	m ³	0.061	0.060	0.058	0.058	0.063	0.058	0.055	0.054	0.059	0.060	0.055	0.054	0.061
	評価		○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
水使用量(第二工場)	第二工場使用量	m ³	3,499	3,986	3,988	5,296	7,130	6,352	4,439	2,906	2,852	3,559	2,387	3,853	50,247
	目標値	m ³	5,638	3,918	4,037	4,207	2,802	7,198	2,301	2,065	1,239	1,555	1,505	1,917	38,382
	1C/S当たり	m ³	0.017	0.019	0.019	0.024	0.035	0.029	0.035	0.033	0.037	0.072	0.047	0.045	0.412
	前年	m ³	0.027	0.018	0.019	0.020	0.012	0.035	0.021	0.020	0.021	0.021	0.024	0.020	0.023
	評価		○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
化学物質使用量	使用量	L	該当化学物質の使用無し。												
	目標値	L													
食品廃棄物	廃棄量	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	目標値	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域貢献活動	日田市内の小中学校全30校を対象に実施。7月中旬から10月初旬にかけて、自社商品を約10,000袋を提供。 市内祭り後のゴミ拾いボランティア活動に参加。出店先広場及び周辺施設、駐車場対象実施。														

予算作成時の生産数をベースに目標値を設定。

評価 ○×基準

目標値に対して達成率が100%上回れば○、下回れば×

原水評価基準

前年度の単月使用量を目標値に設定。目標値を下回れば○、上回れば×

◆取組結果と今後の展望

エネルギー使用量：年間通じて小集団活動(マイエコアクション)を実施し、電力使用量抑制に努めた。(詳細後述記載)

一方で安定した生産実績となったことにより、電力を含めたエネルギー使用量は増加し年間通じて目標未達となる。

今後は更に工場設備の老朽化が進む中で、小集団活動(マイエコアクション)の継続実施が必要になってくる。

次年度も電気使用量抑制をターゲットにした活動を実施見込み。(工場内休憩時の設備稼働停止他)

水使用量： 夏季より第二工場バイパス工事実施。

(第二工場から第一工場へ送水し、原料水を冷やすことにより原水を太らせ生産量を保つことが狙い)

これに伴い、第二工場生産分へ直接的に関与しない水使用となり、年間通じて目標未達となる。

次年度に向けては、送水手順・時期等を取り決め水の適切使用に努める必要がある。

7. 取組内容の結果と評価

	取組内容	実施 評価	活動の結果
薄肉資材使用・検証・評価継続	・製品に使用する包材各種の薄肉化。 ⇒環境に配慮し、二酸化炭素排出量の削減。	○	使用製品毎に随時切替え、完了後品質面も問題なし。 ただし、これ以上の薄肉化は検討見込みなし。
グリーンロジスティック継続	・委託営業冷蔵庫の変更。 ・トラックの待機時間の削減。	○	二次保管先の営冷を主要出荷先のエリアに集約し、二次物流にかかる距離・ガソリン使用量を継続的に努めた。 時差出勤の継続に加えて2直稼働期間での夜間横込を実施し、トラックの待機時間の更なる削減に努めた。
倉庫・プラットフォーム温度管理	・工場管理基準書をベースにした冷凍施設設定温度の見直し。 ・設定温度帯変更、冷凍機稼働の停止。	○	閑散期に稼働冷凍機の間引き運転、温度設定の変更を昨年より継続。 本年も容量の大きい倉庫冷凍機-22℃から-20℃に変更したことにより、CO ₂ 排出量抑制。
工場稼働日の調整	・需給会議を通じ、適正在庫管理を物流部と連動し生産予定の管理。	○	都度需給会議を行い、生産予定を確認、変更。 最盛期の生産体制に問題はなく、また閑散期の生産調整も良好。
環境に配慮した資材の導入・検証	・梱包資材の軽量化。 ・容器軽量化。	○	カフェアイテムそれぞれ容器薄肉化50%リサイクル品を、一部エリアに限り導入。今後全国的に展開予定。
資材の荷姿検討・導入	・カフェ段ボール結束バンド巻き数検討	○	一部取引段ボールメーカーに依頼し、結束束を20枚→30枚へ。 これに伴い、年間トータルの結束紐(m数)削減 ※削減量：約30,000m
産業廃棄物排出リサイクルの継続	・廃プラ、フィルムの100%リサイクル	○	両工場で発生する廃プラ、フィルムの100%リサイクルを継続して実施することが出来た。
水の適正管理	・ロスの削減	○	過軽量ロスに着目し、時間によるフィーダー時間強度調整。 オペレーターによる差を無くするため、手順書を作成し平準化。 ロス昨対比55.88%金額-635,804円の削減効果となる。
節水の啓発活動	・食堂やトイレ等に節水活動に関する掲示物を作成	○	啓発活動を行い、意識付けを継続して行った。 マイボトル推奨活動により、食堂に使用する水使用量が減少。
有機溶剤の適正管理	・使用量(在庫)の適正管理	○	出納帳を利用し、適正に管理していることを確認済。
食品廃棄物排出0%の継続	・在庫の適正管理	○	2部署による在庫管理の徹底を継続。 食品廃棄物ゼロの継続。
教育を通じての環境意識向上	・産業廃棄物中間処理施設 訪問	○	産廃物の現状並びに関連知識を深めることを目的とし訪問。 環境についての学びの時間となった。
地域貢献と森林再生	・植林後の育樹活動 ・定期管理(草刈り)	○	10月に委員会メンバー草刈りを実施。 講師の方を招いて、植林地の確認と森の勉強会を会社全体で開催。
地域貢献活動	・市内小中学生に、熱中症対策としてロックアイスを配布 ・地元祭り後のゴミ拾いに参加 ・会社周辺地区清掃活動	○	7月中旬から10月初旬にかけて自社製品を配布。 市内小中学生に喜んで頂けた。 ロックアイスかき氷出店広場周辺のゴミ拾いに参加。委員メンバー以外の従業員も参加。地域貢献することが出来た。

【資料】環境目標と実績評価

株式会社九州コクボの食品向けガイドラインへの対応

1.現状把握

2023年度食品取扱総重量：1.083 t

2023年度の廃棄物重量：0t

2024年度食品取扱総重量：1.117 t

2024年度の廃棄物重量：0t

2.実態

○食品の取扱いと物流について

本社日田工場では、ロックアイス®のみ生産を行っているため、食品リサイクル法及びガイドラインへの抵触は無い。冷凍和洋菓子について取扱いはあるが、自社工場での生産が無く、全ての商品が仕入れ(一部OEM商品)であり、自社倉庫での保管もない。得意先からの依頼を受け、仕入れ先から直接卸売業者へ商品が届く。商品サンプルとして少量を自社倉庫で保管するが、期限切れが近い商品は社員での持ち帰りを行う為、食品廃棄が発生することはほとんどない。

3.食品リサイクル法及び食品関連事業者向けガイドラインの取り組み

食品リサイクル法について、発生が少ない為、抑制することで適応している。

○徹底した在庫管理の継続

月ごとの販売量に若干の差はあるが、一定の取引があるため、商品サンプルを含め月の棚卸や、システム内データの確認を徹底する。

○食品リサイクル化の数値目標

・過去数年間廃棄物発生がゼロだった為、環境経営方針を刷新した本年度も廃棄物ゼロの目標を継続とする。

○2024年度の実態

・2024年度の廃棄物発生率

食品廃棄物は、0 t なので、発生率は0%

・前述の通り、営業部と物流部の双方で在庫管理を徹底。

結果として、食品廃棄物ゼロの達成。

○コンプライアンスにもとづく対応

月毎の発生率5%以上の廃棄量となった場合は、対応策を決定し速やかに業者へ依頼する。

基本はマニフェストを発行し、産業廃棄物としての処理を行うが、場合によっては

一般廃棄物としての処理を行う。

地域貢献活動～清掃活動～

【活動内容】

地域貢献活動の一環として、毎年5月下旬に開催される「川開き観光祭」に出店。
今年度も自社製品を使用したかき氷店を出店。ディズニーパレードも行われ、大盛況となった。
後日委員メンバー他従業員と会場及び周辺のクリーンアップ活動を行った。
また、今年度は会社周辺の清掃も実施した。1回/月早朝より委員会メンバーと従業員で活動実施。

【所感・展望】

祭り当日は、気温も上昇しかき氷日和となった。
地域の皆さまとは、かき氷販売を通じ交流する機会を得ることができ、
ロックアイスの冷やす力で喜んでいただいた。
後日クリーンアップ活動では、委員メンバー他従業員と実施。
その場でも地域の皆さまと交流し、熱心に活動されていることを目の当たりにし、
ますます環境、地域に寄り添った形で事業活動をする必要性を考えさせられた。



小集団活動紹介

～マイエコアクション活動～

今年度も継続し製造部小集団活動(4チーム制)を行い、主に製造に関わる水資源及び、電力使用量を削減すべく年間通し活動。各チームで目標設定、マイエコアクションを通じ目標達成に向けエコ活動実施。

【活動内容紹介】

①廃プラ・フィルムの回収コンテナ廃棄量の見直し・廃棄手順の変更によりコンテナ回収回数を減らし、CO2排出量抑制。

⇒今回ステークホルダーである産業廃棄物運搬業者の輸送にかかるCO2排出量に着目し年間を通じて継続、前年比▲3回の引取り回数減となった。(約0.01914 t-CO₂削減)

②製氷室アジテーター周波数変更により、電気使用量抑制。

周波数60Hzから繁忙期50Hz、閑散期45Hzに変更。

原氷の出来栄え、揚氷量の増加が懸念されたが、影響が出ない事が確認できた。

年間削減効果として45,349円となり、周波数変更によりモーターの負荷を下げることに繋がる為、一般的なモーターの耐久年数15年から更なる年数耐久性が見込め、修繕費抑制にも寄与することができた。

【その他活動紹介】

- ・適正ボーマ管理を実施し、冷凍能力抑制。
- ・冷却水送水による冷凍機負荷抑制。
- ・工場稼働率の安定、設備稼働時間を短縮させ電気使用量の抑制を図る。
- ・過軽量抑制による廃棄物抑制及び、歩留まり向上。
- ・庫内損耗による廃棄物抑制を図る。
- ・過軽量品再利用による地域貢献活動に寄与を目的とし、翌年度に向け地域貢献用製品制作。

【今後の展望】

全体を通じて、従業員が創意工夫を凝らしそれぞれが異なる角度から取組んでいる成果がうかがえる。

しかし、取組み内容に頭打ちとなる場面も多く見受けられることが散見された。

課題として、既存設備のみでの省エネルギーには限りがあるため

今後はエコロジーに特化した設備導入などイニシャルコストをかけ、長期的且つ継続的に取組める内容の抽出が必要である。

中間処理施設訪問

24年11月22日、関連知識を深めることを目的とした訪問を実施。
併せて、産業廃棄物の実情を身近に考える機会を創出した。

【当日の様子】



【所感、展望】

訪問した施設では最終的に人の手によって選別されており、
分別がなされていない現状があるということを目の当たりにした。
私たちの製品製造において、モノを作れば産業廃棄物が発生する現状にあり、
これまで以上に必要最低限の発生量に抑え、分別の意識をより高く持つ必要がある。
そして、今後も継続してリサイクル率100%に取り組むことを目標として
従業員の意識定着を図り、豊かな地球環境を守っていかなければならない。

森の勉強会

“企業参画の森づくり”から3年が経過した。

森と水は切り離すことができない“相即不離”の関係。

24年10月19日にその後の“森”の状態確認や、未来に向け森林と共に生きていくことを目的として外部講師を招き、【森の勉強会】と題したイベントを開催。

【当日の様子】



【所感、展望】

当初の予定では、外部講師の講演に加え参加者全員で植樹地点の散策・手入れ等予定していたがあいにくの天候に見舞われ、屋内での開催に留まった。

しかし、目の前に森林が広がるのが容易に想像出来る様な講師の臨場感溢れる講演、実際の植物や木の実を用いて、触れたり口に運んだり

五感で自然と触れ合う貴重な時間を過ごすことが出来た。

前述の通り森と水は持ちつ持たれつ、当たり前のことだが意識が稀薄となりつつある昨今。

水郷日田で水資源を活用し事業を営む私たちだからこそやらないといけない、出来ることを改めて考える一日となった。

今後も森から授かった貴重な水資源を、継続して事業へ活用出来る様引続き森と共に生きることを熟考していく。

8. 環境関連法規の遵守

2025年3月31日に、関連法規の内容及び遵守状況を確認。対象となる法令に違反はありませんでした。
また、外部からの苦情やお申し出も発生しておりません。

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	該当する設備・項目	遵守評価
廃棄物 処理法	・委託基準:一廃収集業者の許可の確認	一般廃棄物(紙くず、繊維くず、木くず、生ごみなど)	○
	・委託基準:産廃収集運搬・処分業者の許可の確認、契約	産業廃棄物(金属類・廃プラ類・木製パレット、廃水銀使用製品)	○
	・保管基準 掲示板:60cm×60cm以上表示 飛散・浸透防止 衛生管理		○
	・マニフェスト交付 B2・D票90日、E票180日以内に送付されない場合は30日以内の知事への報告 A、B2、D、E票の保管(5年間)		○
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出		○
	・処理の状況について確認の努力義務		○
食品リサイ クル法	・平成19年度を基準に事業者ごとの再資源化率の目標達成を目指す	動植物性残さ	○
	・食品廃棄物等の発生原単位が基準発生原単位以下になるよう努める		○
	定期報告義務 ・前年度の発生量が100トン以上、発生量・食品循環資源の再生利用等の状況を報告(・フランチャイズチェーン店では、集計量で100トン以上)		○
浄化槽法	・保守点検、清掃、記録の保管(3年間)	浄化槽	○
	・定期水質検査		○
省エネ法	エネルギー使用状況の届出	エネルギーの使用	○
	エネルギー管理統括者・管理企画推進者・管理者の選任・解任届		○
	中長期計画書の提出		○
	定期報告書の提出		○
フロン排出 抑制法	・フロン類の登録充填回収業者による適切な引き渡し	業務用空調機 業務用空調機(GHP) 業務用冷蔵庫・冷凍庫 エアドライヤ、冷水機 恒温恒湿器	○
	・環境影響の少ない指定製品の使用に努める		
	・フロン類回収時の委託確認書交付と引取証明書の保存(3年間)		
	・引取証明書が30日以内に送付されない場合の知事への報告 対象:第1種特定機器 ・簡易点検(すべて 1回/3ヶ月以上)		○
	・有資格者による定期点検 冷蔵冷凍機器 (7.5kW以上 3回/年以上) (50kW以上 1回/年以上)		
	・点検記録の保存(3年間)		
労働安全衛 生法	SDS義務のリスク評価 ・化学物質管理の強化 ・情報伝達の強化(SDS) ・ばく露防止措置の義務化 ・教育の拡充	SDSが義務化された物質 (2023年度4月法改正)	○
食品衛生法	・HACCPに沿った衛生管理の義務		○
高圧ガス保 安法	・高圧ガス容器置場や充てん容器は、容器置場の技術上の基準に従う。	ボンベ類の転倒防止、40℃以下、警戒標など	○
	・容器の定期検査		○

9.代表者による全体評価と見直し・指示

			評価日	2025.6.16
見直し 関連情報	項目		代表者の所見	代表者
	1	組織概要及び認証登録の範囲	資材庫拡張による延床面積増床/冷凍和菓子事業は撤退	木村 勇輝
	2	実施体制（組織）	取組経過し各従業員の恒常化や新たに入社したメンバーへの浸透は課題	
	3	環境経営方針	確実に取組出来ており現状変更する必要はないと思慮	
	4	環境経営目標	削減目標前年実績▲0.5%、引き続き実態に合わせた目標設定を模索推進願う	
	5	環境経営計画の取組活動	それぞれ活動し結果は出せたが実施する具体策にも限界あり外部情報収集し新たな試みを模索する必要がある	
	6	環境経営目標の達成状況	生産向上目的にバイパス送水を実施したが水使用量に影響が出た事は私の責任である。但し経営を全うする上での生産性/安定供給を鑑みた判断であった事は理解願いたい	
	7	取組内容の結果と評価	働く場の環境やコストなどの全体バランスは大きな課題と感じる	
見直し と 評価	8	環境関連法規のとりまとめ	法令遵守は企業としての社会的責任であり全従業員に浸透意識させる対応策は必要と感じる	
	24年度はケースあたり電力使用量は達成したが水使用量に関しては生産性向上に向けたバイパス送水を実施したことにより未達となった。工場老朽化原因もあるが今期来期にかけ中期投資もあり少しは改善される。また送水時期や手順検討するなど知恵出し合い削減されることも期待。その他今期研修としてEA21に直接的な関係はないが物流業者より2024年問題に関する講義を実施、人材不足やあらゆる法改正によりこれからどのように当社に影響されるかを学び少なからず企業間同士が協業する必要性は感じて貰った。 昨今企業に求められている内容はコスト/品質/環境であったがここ最近”信頼”というワードが追加された。私たちのような人が直接口に入れる商品を製造している企業は環境取組も信頼に繋がると感じ、社会情勢影響により非常に厳しい状況であるがステークホルダーから求められている信頼を全うし従業員そして企業として成長歩めるよう推進したい。			

10.2025年度 環境活動取組目標/達成手段

■ 二酸化炭素排出量の削減

【取組目標】	【達成手段】	SDGs8-5・9-4
①環境配慮に取り組み、コスト削減を目指す	①自然冷媒切替	
②工場稼働の効率化	②-1閑散期の稼働日調整	
	②-2設備エアー漏れ適宜是正	
③施設改善	③節電活動(事務所サーキュレーターの導入等)	

■ 廃棄物排出量の削減

【取組目標】	【達成手段】	SDGs12-5
①資材における廃棄物削減、コスト削減、作業軽減	①トラブルによる廃棄ロスの防止 過軽量品ロスの削減・作業工程の見直し 庫内損耗の削減	
②産業廃棄物排出リサイクルの継続	②廃プラ、フィルムの100%リサイクルを継続	

■ 水の適正管理

【取組目標】	【達成手段】	SDGs6-4・6-5
水の適正管理	原水ロス削減継続+副原料水の削減 原水注水量の見直し 生活用水節水活動継続	

■ 化学物質使用量の適正管理

【取組目標】	【達成手段】	SDGs12-4
①化学物質の適正管理	①インク使用量の適正管理 化学物質のリスクアセスメント実施	

■ 食品廃棄物ゼロの達成

【取組目標】	【達成手段】	SDGs12-4
①食品廃棄物排出0%の継続	①仕入れ商品在庫の適正管理の継続	

■ 環境保全活動、地域貢献活動を通し社員の意識向上を図る

【取組目標】	【達成手段】	SDGs13-1・15-2
①森林再生の継続	①育樹活動継続 【企業参画の森】 下刈りによる手入れ継続	
②水郷日田への感謝	②地域の清掃活動へ参加 イベント参加周辺及び三隈川清掃	
③氷の持つ冷却エネルギーで地域貢献と支援	③熱中症対策の継続・リサイクル氷提供・災害支援活動	
④社員教育	④勉強会参加、実施等	